
声にならない僕達の声

スグル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

声にならない僕達の声

【Nコード】

N3772E

【作者名】

スグル

【あらすじ】

多感な時期の少年、青年達の叫びの数々。

（前書き）

この作品は、短篇ではありませんが、数々のオムニバスで成り立っております。言い換えれば、短篇になるには、インパクトが弱かったネタの在庫一層セール。

『クロマグロ パート2』

『木曜特番、日本の文化は何処に？ああ、今宵も、あんたの、わさびが目染みる。大体、オムライスとナポリタンは洋食だけど、日本で生まれたんだよ。だから、料理で日本の心を取り戻そうじゃないか、スペシャル』

と、ナレーションが流れた後、妙に長いタイトルの特番が始まった。

僕は、この番組の後に放送される今日の洋画劇場、『セクシーハインター・肉彦』を観たかったのと、この時間帯は、つまらない番組ばかりなので、仕方なく、このチャンネルにした。

まあ、とりあえず、料理に関する番組は観て、損はないだろうと思う。

多くの食材が置かれた、和式のキッチンがセットされているスタジオで、アナウンサーがマイクを握って、立っていた。

「みなさん、こんばんわ。司会の蟹肉馬男です」

と、アナウンサーが番組の進行を進めていた。

「今、街中の至る場所には、欧米化が進んだようなファーストフード店や、ファミレス、チェーン店、コンビニなど、海原雄山だったら、ブチギレて、長い演説を始めそうな飲食店が増えました」

確かにと、僕は思った。
特に、海原雄山あたりが。

「今日は、有名な料理の先生にお越し頂きまして、日本の文化の象徴である、日本の料理を、簡単、手軽かつ、財布に優しく、大胆かつ、セクシー、刺激的に！情熱的に作って頂き、我々、日本人が忘れた日本の魂を甦らせようとするのが、今日の番組です」

なるほど。

日本食と言うのは高タンパク、低カロリーと言われてはいる。メタボリックとか、ダイエットブームが増えたのも、食事の欧米化による物だろ。

ちよつと、興味が湧いてきたな。少し、日本食の勉強として観てみるか。

とりあえず、どんな料理を作るだろう。

「さて、本日、大胆かつ、セクシーに、刺激的に！情熱的に料理を作って頂きます、灰汁料理学校講師、黒鮪黒陰先生くろまぐろ くろかげの登場です！」

と、司会者が言うと、観客が拍手をし、BGMが流れた。

すると、スタジオの脇から、黒い髪の毛を顔が見えなくなるまで伸ばした黒い服と、黒いエプロンの男が現れた。

うわぁ…、怖ッ…。

料理の先生なのかよ…。

「黒鮪先生、今日はお越し頂き、ありがとうございます」

と司会者が、キッチンに立った黒い服の料理の先生に挨拶をした。
すると…、

「体が、夏になれよ！！ためらう事になれた肌に事件起こせよ！！」

・ ・ ・ ・ ・

何故か、いきなり、黒鮪先生が髪の毛を振り乱して、ブチギレた…。

司会者の顔が固まった。

観客が静まり返った。

僕も、テレビの前で固まった。

「あつ…、すいません…」

と、いきなり、正氣に戻った黒鮪が謝りだした…。
なに、これ生放送…？

「あつ、先生、お氣になさらずに…。こちらこそ、申し訳ございません…」

と、司会者が平常心で返答した。
すると、頭を深々下げて、黒鮪が…、

「いや…、すいません…。楽屋に、頼んでいた物が来なかったんで…、ついイライラして…」

と、司会者に言った。

そんな楽屋話を、生放送で話すなよ…。

「あつ、だったら、スタッフに責任がありますので…。ちなみに、なにを頼んだんですか？」

と、また司会者が黒鮪に謝る。
すると…、

「デリバリー・ヘル…」

ブッ！！

テレビの画面が、いきなり切れた…。

僕は、『セクシー・ハンター肉彦』が始まるまで、一斉風靡セピアを踊る事にした。

そいや！そいや！そや！

……………

『ポエム』

今日、僕は中学校の課題で、ポエムを書くことになった。

何故、ポエムを書くことになったのかと言うと、同じクラスの久彦君が、先生から朝の出席確認の際、名前を呼ばれた時に、

「俺が、ガンダムだ!!」

と叫び、みんなから沈黙を買ってしまったからだ。

このことが問題になり、すべての授業が中止。クラスで話し合いとなり、この久彦君の行動について、どう思ったかを、ポエムにして、明日、提出しなさいと先生が言ったからだ。

しかし、参ったなあ、僕はポエムが苦手なんだよなあ…。

このことを、晩ご飯の時に、お父さんや、お母さん、お姉ちゃん、なぜか、昨日から家に住み着いた親戚でも、知人でもないヴィジュアル系の人に相談してみた。

お父さんは、

「いや、ガンダムはファーストだろ」

と言い、お母さんは、

「ウイングよ」

と言い、お姉ちゃんは、

「マクロスよ」

と言って、口論になってしまった。
すると、ヴィジュアル系の人が…、

「君が思ったことを、書き綴ればいい…。君がどう思ったかを、君の魂を、言葉と言う名の武力で、読み手の魂に介入しなよ」

と、言った。

僕は、いや、あんた、誰だよ？勝手に、ひとんちで飯食うなよ、と答えた。

言われたとおりに、僕の魂を書き綴ったポエムを、朝、先生に提出した。

すると、帰りのホームルームで、僕のポエムが、一番良かった、と先生が言った。僕は少し恥ずかしかったけど、嬉しかった。

ヴィジュアル系の人、ありがとう。

そして、飯代払え。

先生が、みんなの前で、ポエムを読み上げなさいと言ったので、僕は、昨日の久彦君の行動について思ったポエムを披露した。

『中学生の冗談に、マジレスして、授業を潰すのは、どうかしてるし、なんで、作文じゃなくて、ポエムだよ』

先生に、後で職員室に来なさい、と言われた。

.....

『日本の文化』

「ハンバーガー、うめえ！」

日本の文化を考える人の会会長の、この一言から、すべてが始まった……。

僕は、君と一緒に居たかっただけなのに…。
戦場は、僕達だけじゃなく、友情をも、引き裂いた…。
もう戻らない、夏の日…。
帰りたい、君と過ごした日々を…。
神様、お願い…。
時間を巻き戻して…。

………

『ラブシーン』

「君が好きだ…」
「私も…」

そうして、二人は、夜空の星の輝く東京タワーの下、静かに抱き合う。

互いの温もりを感じ合いながら…。

次回へ、つづく。

次回、
『盛りそば、おかわり！』
を、お楽しみに。

.....
『運動会』

僕は、借り物競争が苦手だ。

普通に走るだけならいいけど、紙に書かれた物を借りなければ、ゴール出来ないなんて…。

大体、紙に書かれた『デイスコマスター』って、なんだよ…。

そう思って、周囲を見渡すと、観客席のお母さんが、カバンから、『デイスコマスター』を取り出してくれた。

お母さん、ありがとう。

そう思いながら、僕は片手に、ジョン・トラボルタのフィギュアを握り締めた。

.....
『失恋』

僕は失恋した。

別に、告白してフラれたんじゃない、その好きだった女性は僕のことなんか見ていないんだ。

彼女には、彼氏が居る。

だから、僕は、彼女にとって背景でしかない。
それに、気付いたただけだ。

友人に、そのことを話した。

「相手に思いも告げず、自分の中で終わったことにするのか？そんなの、告白して、フラれるより、格好悪いよ。彼氏から、彼女を奪ってやるくらいの男らしさを見せろよ！」

と、友人の彼が言った。

確かに、そうかもしれない。

でも、実は、僕が好きなのは、おまえの彼女なんだよ…、ドチクシヨウ…。

いいよな、おまえは彼女が居て、人生ウハウハだから、んなこと言えんだろぅが…、チクシヨウ…。

大体、その慰めの言葉とか、ドラマの観すぎなんだよ、テラチクシヨウが…。

ああ、俺より、幸せな男が憎い！

こうして、僕は帝国軍を立ち上げ、来たるべき、非モテ達によるリベリオンに向けて、駒を進めた。

「もう戻れない。いや、戻らなくていい」

こうして、僕の戦いが始まった。

.....

完

（後書き）

余談ではありますが、作者の悪癖で、連載作品に、脱線気味のギャグ話を挿入してしまう癖があり、現在、連載中の、シリアス、ダイクを意識している連載作品の『漆黒のシュガーレス』に過度のギャグ話を挿入してしまうかもしれないので、憂さ晴らしの形で、短篇を書かせて頂きました…。どちらも、未熟で、見苦しい作品ですが、よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3772e/>

声にならない僕達の声

2010年12月3日05時40分発行